

こども発達支援センターのぞみ

令和7年度「地域における発達支援の中核的役割」の報告について

地域の中核的役割



研修など情報提供
支援者への支援



外部機関による
評価

地域支援

発達支援事業



児童発達支援



放課後等デイサービス

地域の保育所・幼稚園の相談援助
幼通協※巡回相談の研修員



相談支援事業所
子育てに関する相談
三原市発達相談



保護者支援
家族支援



こども発達支援センターのぞみ



地域の支援事業所の
相談援助



三原市との連携
地域自立支援協議会
児童支援部会



保育所等訪問支援
幼・保・学校連携
地域連携

※幼通協：広島県東部幼児通園療育機関協議会

中核機能としての主な取り組み

幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

丁寧できめ細やかな療育

- ・個に合わせた支援を行えるよう子ども7,8名に対して3,4名の職員を配置しています。必要に応じて、個別対応も行っています。
- ・子どもたちの興味のあることからスタートし、ものづくりやクッキングなどを通して道具の操作や新しい知識に触れること、友達との意見交換や協力など、楽しい学びを広めることができるようにしています。
- ・子どもの発達の状況を客観的に把握する為、必要に応じて検査を行います。

家族支援や関係機関との連携

- ・保護者の困り感に応じて面談や電話で丁寧に対応しています。また、スムーズな移行のための勉強会、保護者同士をつなぐ茶話会などを行っています。
- ・学校や幼稚園、保育所などで子どもや先生方の困り感などに応じて、訪問し連携を行っています。

不登校の子どもの支援

放課後等デイサービスにおいて、不登校の子どもや学校への適応が著しく困難な子どもを受け入れるクラスを午前に設けています。集団の中ではなかなか自分を発揮できない子どもが、自分らしい発言、活動ができる場となっている子どもも多くいます。中には、学校へ行けるようになった子どももいますが、今後安定した生活を送るためにどのような形で支援を行っていくかが課題です。

地域の障害児通所支援事業所に対する支援内容等の助言・援助機能

地域の保育所・幼稚園・小中学校の相談援助

- ・広島県東部幼児通園療育機関協議会（以下幼通協）が、三原市から委託を受けて行っている巡回相談に、今年は3つの保育所に研修員として参加させていただきました。長年この地域を支えてきた先生方から学びながら、支援力を養っていきたいと考えます。
- ・通所支援で繋がっている児童、生徒が通っている保育所や学校で困り感があった時には、迅速に対応させていただいています。
- ・地域の小・中学校から連絡をいただき、サービスに繋がっていない子どもの評価や支援方針の立案への参加、また保護者面談などに対応させていただきました。中にはサービスに繋がるケースもありました。

研修など情報提供

・地域の発達支援事業所の見学実習

当所の児童発達支援の見学実習を2日間受けました。当所の支援員と子どもとの関わりを見てもらい、見学後にカンファレンスを行いました。

・地域の発達支援事業所と他機関の連携のサポート

発達支援事業所と他機関の連携会議の場に入る依頼を受け、第三者として入ることでスムーズな会議の進行をサポートしました。

・研修

つながりのある大学の先生から依頼を受け、教育学部の学生に特別支援に関する講義をオンラインで行いました。

地域のインクルージョン推進の中核としての機能

幼・保・学校連携 地域連携

〈保育所等訪問支援〉件数は年間約10件と多くはありませんでしたが、特別支援教育を専門とするスタッフが訪問し、子どもへの支援や先生方との連携を丁寧に行いました。

・通常時の学級の中で、どのような合理的配慮を行い、その子らしく無理なく集団生活を送っていかれるかという相談もありました。通級や学校の空き教室、その時間に対応できる先生などあらゆる支援資源を使って柔軟な対応をとるということについて先生方と意見を出し合い話し合いを行いました。

・先生方がクラス運営をする上で、担当の子どものみへの支援ではなく、クラスにいる他の支援ニーズの高い子どもへの支援も一緒に考える必要があると考え、要望があったときにはクラスの他の子どもたちへの支援についても提案していきました。

地域の障害児の発達支援の入口としての機能

相談支援 子育てに関する相談援助

サービスに繋がっていない子どもの基本相談が今年度は19件ありました。以下、いくつかを紹介します。

・読み書きが難しく、学校へ行き渋っているという相談があり、子どもと面談を行いました。「読み書きは難しいけれど、新しいことを学びたい。」という気持ちは強く、読む、書く以外の方法を本人と一緒に考え、学校と話をしていきました。これから保育所等訪問支援に繋がり、継続的に支援を受けられるよう体制を整えつつあります。

・毎朝学校へ行く前に行き渋っており、保護者がとても不安になっているという相談がありました。保護者と面談を行った後、子どもとも面談を行い、動きたいニーズがとても高いということが分かり、教室にじっと座っていることがつらかったということが分かりました。放課後等デイサービスに繋がることで身体を使った活動がしっかりできる場を生活の中に取り入れ、連携によって学校での支援体制を整えていくことで、学校生活が少しずつ安定してきています。

これらは、サービスに繋がり支援体制を整えることができつつありますが、一方で相談には繋がったが、1回、または数回で途切れてしまった、支援の提供までにまだ進んでいないというケースもあります。

発達支援の入り口として、いかに安定的な支援体制を整えるための相談援助ができるかということがこれからの課題です。

三原市発達相談

三原市が幼通協に委託して行っている発達相談に、幼通協の相談員として参加しています。保護者の方が「発達が気になる」と感じたとき、保育所の先生や健診をきっかけに相談につながるケースが多いです。相談では、お子さんの発達の様子を一緒に確認し、これから必要なサポートについて保護者の方と話し合いながら、適切な支援先へつないでいきます。